

平成28年度第6期川崎区区民会議

第3回だれもが住みたいまちをつくる部会摘録

日時：平成28年9月6日（火）午後6時30分

場所：川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 10名

新井トキ子、須山令子、峯尾照、高橋順子、江守千恵子、能條重信、
朴昌浩、知念ジョアンナ、原千代子、森脇卓郎

傍聴 0人

（進行：町田企画課長）

1 開会

- 委員の出欠の確認
- 会議の公開、会議録の開示、会議の記録、広報としての写真撮影等の説明、傍聴者の確認
- 配布資料の確認

（進行：原部会長）

2 議題

(1) 第1回、第2回専門部会の審議内容を踏まえた審議課題の選定について

第1回、第2回専門部会の審議内容を踏まえた審議課題の選定について、
「資料1-1：第1回、第2回専門部会の審議内容を踏まえた審議課題の
方向性について」、「資料1-2：第1回専門部会の審議内容の確認と区民会議
で取り組みたい課題の絞り込みについて」を用いて、事務局が説明を行った。
意見・コメントは以下のとおり。

(外国人市民に関する事業分野について)

原部会長 まずは、「外国人市民に関する事業」の分野から議論したいと思いま
す。第5期区民会議では、外国人向けの防災フォーラムを開催し、多くの外国人
の方に参加していただきました。これをきっかけに今年度も継続して開催して
いく予定になっています。また、事前アンケートでは、私が区役所外国人窓口
相談事業の利用促進を挙げさせていただきました。これは、以前からの課題で
あり、外国人の方も相談したい気持ちはあるのに、窓口があることを知らない

方が多く、なかなか需要と供給が結びついていない状況です。年間に約20件しか相談実績が無いと聞いています。そのため、窓口相談事業の実態がどうなっているのか、それを担当の方に来てもらってお話を聞かせていただければと思います。そして、その実態をベースに、窓口相談事業をどう広めていくか、利用してもらえるのかを区民会議で提案してはどうかと考えています。

また、事前アンケートでは、他にも審議課題の案が出ていますが、何かご意見はありますでしょうか。

知念委員 外国人は、窓口があるという情報を得られない方が多くいると思います。私は、事前アンケートで、在日外国人と町内会活動の連携を挙げさせてもらいました。外国人への情報発信という面では、似ている審議課題だと思います。交流といった面でも、外国人が町内会に入らなかつたり、なかなか活動に関わってくれなかつたりという課題があり、外国人もなかなか敷居が高くて活動に踏み込めない現状があると思います。

原部会長 町内会の活動に参加できるような何かきっかけがあれば良いと思います。知念委員はどうでしょうか。

知念委員 海外だと、新しい街に引っ越すとウェルカムパーティのようなイベントがあります。川崎市は多くの情報があふれているので、ある程度選定し、それをパッケージ化して情報提供できると便利だと思います。

原部会長 情報提供に関しては、今のような提案の議論を深めていければ良いと思います。第5期区民会議で開催した防災フォーラムでは、例えば、ベトナム人のリーダーの人、フィリピン人のリーダーの人などがいて、そういった方々と区民会議で話し合いの場を持ったり、ヒアリングしたりすると良いと感じています。フォーラムの場ではなく、しっかりと話し合いの場で意見交換をしてみたいです。

森脇委員 どのような場所に相談窓口があるということが知らされていない問題に関しては、例えば、転入者には必ず知らせる広報の仕組みや、外国人の集まる教会や識字学級などで広報する仕組みが必要だと感じます。

また、町内会への参加の問題は、例えば、外国人一家が引っ越してきて、いきなり町内会に参加するということは、なかなか難しいと思います。そもそ

も町内会という組織がどのような組織なのか知らないと思うし、存在自体知らない方も多いと思います。また、町内会といっても、年会費があり、無料ではないため、外国人にとってはなかなか気軽に参加できる組織ではないと感じます。イベントも良いが、開催側も大変だし、一回だけだと継続性がなく、一瞬盛り上がり終わりになってしまいます。やるのであれば、継続的な取組をできる仕組みづくりが大切だと思います。

原部会長 各種チラシも、多言語化してあるものもたくさんあると思いますが、文章が長いものはなかなか読まないと思います。配布していても、見ていない可能性があるため、様々な情報が簡潔に掲載された簡単なパンフレットを作成してみるのも良いと感じます。転入のときに渡しているかもしれませんが、それはその時点の情報でしかなくて、その後、何か外国人向けの新しい情報をどう提供していくか、何らかの形で配布されているのか、現状がわからない状況です。

事務局 川崎市全体では、代表者会議でどういったものが必要かを決めて、外国人転入者にウェルカムセットという形で配布しています。それに加えて、各区で渡したいものを付属して、必ず手渡しを行っています。

原部会長 転入者にはそれでいいと思いますが、ずっと住んでいる方が新しい情報を手に入れるのは、どういった形で行っているのでしょうか。

事務局 新しい情報については、各区の区役所をはじめ、各公共施設などに設置していて、自由に持っていけるようになっています。また、ホームページでは6ヶ国語の表示をしています。

原部会長 外国人市民の視点で考えると、やはりコンパクトにまとまっているものが良いと感じます。

朴委員 あまり情報がコンパクトすぎると外国人によっては混乱する方もいると思います。例えば、以前区役所でまとめて手続きできたものが、今では他の施設に行かないとできないということがあるなど、手続きも複雑化しており、丁寧に説明をしないと理解できないことも多いと思います。第一は、やはり言葉の壁をどうしていくかだと思いますが、なかなか難しい部分もあります。

ひとまずは、生の声を聞くということで、一度ヒアリングのような形で意見交換ができればいいと感じます。

原部会長 個人的には、外国人の生の声を聞く意見交換の場を継続的に進めることは難しいと思うので、まずは、川崎区内の外国人のネットワークを構築していくことから始めてはどうかと考えています。

また、民生委員などの方が、地域に外国人の方がいるけれど、どうつながっていけばいいのかというご意見をよく聞きます。区民会議でも度々課題として挙げられます。わかりやすいパンフレットを民生委員の方に配布して活用してもらうことも一つの方法かもしれません。

新井（ト）委員 民生委員の方も、外国人向けの相談窓口があることを知らないと思います。支援する地域の方にもそういった情報が届いていないと思います。

原部会長 外国人の子どもも多く、先生たちが苦勞しているという話も聞きました。私がかかっているふれあい館でも、翻訳通訳事業というものがあり、それを中学校の先生たちが活用していくという動きもあります。翻訳通訳事業を先生たちが知らないので、まずは支援する側に広報していく必要もあると思います。

峯尾委員 私も民生委員ですが、知りませんでした。外国人の方の対応に困ったこともあります。

原部会長 まとめさせていただくと、1つは相談窓口の実態がどうなっているのかを把握し、どのように情報を提供していくかを検討していく、2つ目として、パンフレットの作成などわかりやすい広報の進め方を検討していく、3つ目は外国人の生の声を聞く意見交換の場を設けるということを審議課題として、今後検討を進めていきたいと思います。

(高齢者・障害者福祉)

原部会長 前回の部会では、第5期区民会議の調査・提案を踏まえてその後の展開を検討していくこととなりました。

事務局 第5期区民会議で作成した「地域における見守り活動に関する調査報告書」の概要版パンフレットについては、関係する団体の会合などのタイミングで広報・周知・配布しています。

森脇委員 何か反応はあったのでしょうか。

事務局 区内全ての町内会と自主防災組織に配布をしています。総会で配布したので、資料として配布はしましたが、説明はできていない状況です。区連合町内会の理事会では戸村委員と出席させていただき、役員の方々にはご説明しました。そのため、あまり反応は聞けていない状況です。区のホームページには掲載済みですが、見ることができない方もいるので、例えば町内会の回覧板で回していただくなど、方法を検討していくこともできると思います。

(子育て)

須山委員 子どもを持つ親に、地域情報の発信をしていくことは大切だと思います。昔、病院や公園など、地域情報を掲載したマップを作成したら、とても喜ばれて活用してくれました。

原部会長 そういったものがあると良いかもしれません。さらにそれを多言語化できれば、子どもを持つ外国人の親も喜ぶと思います。昔作ったものは、まだありますでしょうか。見てみたいです。

須山委員 子育てサロンの活動の一環で作成しました。

高橋委員 特に、身近な情報を載せると好評だと思います。お母さんたちは、身近な情報に敏感です。役所のパンフレットなどは読まないことが多いです。

原部会長 家庭教育への取組の中でそういった地域情報マップの作成も審議課題の候補として考えていくのもいいかもしれません。

森脇委員 マップは誰が作るのでしょうか。区民会議の審議課題に取り上げるのであれば、そういったことまで考えて検討していかないとはいけません。役所はあくまで事務局であり、作業は我々委員がやっていかなければいけません。マップづくりは簡単ではないと思います。

わたしはそれよりも、第4期区民会議から取り組んでいる「子育て支援団体の情報交換会」の展開・継続に力を入れていく方が良いと思います。会の事務局を誰がどのように担うのかという重要な課題が残っています。区民会議で提案したことから、中途半端に終わらせないで、きちんと方向性を出していかないといけないと思います。マップづくりをやるのであれば、子育て支援団体の情報交換会の中の取組として進めていくなど、関係性を考えていかないと一時の盛り上がりで終わってしまうし、区民会議が何でも手をつけていくと、できるものもできなくなると思います。区民会議がマネジメントをして、アクションを起こしていくことが大切です。

原部会長 子育て支援団体の情報交換会の事務局機能は課題として残っていますが、区民会議が事務局をやっていくことは趣旨が異なるし、行政側も難しいということで、私の認識では頓挫してしまっているとおもっていました。

事務局 第5期区民会議までで、子育て支援団体の情報交換会は、大師地区で2回開催しました。その2回は区民会議で事務局をりましたが、今後継続していくためには、事務局機能を担ってくれる地域の方が必要で、どうしていくかということは今後の検討課題として残っています。

新井(ト)委員 子育て支援団体の情報交換会を他地区でも開催するという話もありました。

森脇委員 田島地区は既に事業を実施しており、小田公園での活動を中心に取り組みされており、中央地区は地域上、開催は難しいのではないかといいことでした。そのため、継続して展開できる可能性があるのは、大師地区です。モデルケースとして、今後も開催・継続を検討していきたいです。

原部会長 子育て分野とともに、高齢者・障害者福祉分野も一緒になって、地域情報誌や地域情報マップの作成という案が出ました。やっていければ面白いと思いますが、区民会議でどこまでやっていけるのか検討する必要があると思います。

峯尾委員 渡田で地域包括支援センターが中心となって1年近くかかって病院、銀行、コンビニ、配達可能な店舗(食堂含む)の情報を掲載した地図

を作成しました。

また、民生委員も協力していたので、その地図にひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦の情報も追加しました。

森脇委員 ゼロから作っていくのは大変なので、何か見本となる事例を知りたいです。区民会議で区全体を作っていくことは難しいので、第5期区民会議の防災マップづくりのマニュアルの作成のように、見守り活動の調査の概要版パンフレットに付加させる形で、例えば、地域にこういったマップを作っているのでしょうかという投げ掛けや提案ができると良いと思います。

峯尾委員 役所が持っている地図データを使って、様々な色分けや情報を載せていくことができれば、マップは作成できると思います。

事務局 第5期区民会議で作成した「地域防災マップづくりのすすめ」では、行政の地図情報システムのマップをベースとして活用しました。個人情報には載っていない白地図になります。

原部会長 まずは参考となる同様の趣旨のマップを見ながら、今後検討していきたいと思います。

江守委員 高齢者・障害者福祉関連や子育て関連の各団体で、それぞれマップを作っていると思いますが、それを集約できるようなマップが作成できれば良いと思います。

(2) 審議スケジュールについて

審議スケジュールについて、「資料2：「審議スケジュールについて」を用いて、事務局が説明を行った。

審議スケジュールについて、意見・コメントは出されなかった。

3 その他

- 第2回の全体会議は10月28日に開催予定。
- 第4回、第5回の専門部会については日程調整をお願いしたい。
- 10月24日に市長と意見交換する区民車座集会在開催されるので傍聴という形ですが参加していただければと思います。

やまぐちふくくちょう
(山口副区長)

ほんじつ ねっしん ぎろん じょじょ しんぎかだい ほうこうせい み
本日は熱心にご議論いただきありがとうございます。徐々に審議課題の方向性が見
えてきたと思います。今年度も約半分が過ぎました。今年度末には中間報告書を作成
するため、今後とも審議の方、どうぞよろしくお願ひします。

へいかいせんげん
■閉会宣言

ごご じ ふんへいかい
午後 8 時 30 分閉会

いじょう
(以上)